

## 第30回 視野検査について

### (1) 緑内障

中高年の方に起こる代表的な眼疾患のひとつに緑内障があります。

緑内障は、カメラに例えれば、目のフィルムにあたる視神経に障害がおこり、視野（見える範囲）が狭くなる病気で、疫学的な調査によれば、日本人40代以上の方の約5%の方に発症しています。

視野（見える範囲）が狭くなる症状は非常にゆっくりで、病気はかなり進行するまで自覚症状はほとんどありません。そのために治療開始のタイミングを見究めるための検査が重要になります。



資料：サンテン製薬

### (2) 視野検査

緑内障は、眼圧検査、眼底検査、視野検査等で診断されます。

**眼圧検査：**直接、目の表面に測定器具をあてて測定する方法と目の表面に空気をあてて測定する方法があります。

**眼底検査：**視神経の状態をみるために、視神経乳頭部を観察します。

視神経が障害されている場合、陥凹（へこみ）の形が正常に比べて変形し、大きくなります。  
緑内障発見のための必須の検査です。

**視野検査：**視野の欠損（見えない範囲）の存在の有無や大きさから緑内障の診断や進行の具合を判定をする重要な検査です。

視野計の内側に顔を固定して中心のマークを見つめ、周辺に出現する小さな光が見えたら、手に持っているブザーを鳴らして、視野の範囲や欠落部を調べます。片目ずつ行ない、両目の検査が終わるまでに30分くらいかかります。



ハンフリー視野計

### (3) 当院の取り組み

ゆたに眼科では、患者さまの症状や訴えに対して、またコンタクトレンズの定期検査などで特に訴えがない場合でも、医師が必要に応じて検査を実施しています。

健康診断や人間ドックで何らかの指摘をお受けになったときや、ご家族が緑内障と診断されたとき、また、気になる症状を感じていらっしゃるなど、お気軽にご相談下さい。(2015.12.17)